無料
ご自由にお持ち帰り下さい

平和で豊かな沖縄県を目指す情報誌

沖縄協会だより

2021.7
No.20

平和の絵ー「戦争と平和」

20点連作ー第9作

西村計雄 作
首里城の夢
300号
176.1×304.1×6.5 ㎝

沖縄平和祈念堂
所蔵絵画紹介

〈制作意図〉

沖縄の歴史を刻んだ首里城。この沖縄の心のふるさとはきびしい近代戦で戦場となり、すべて灰燼に帰してしまった。沖縄文化の象徴として、秀れた伝統美を誇った首里城の再現を夢見た。制作者が思索した美しい花にかこまれた首里城であり、その再建を一日も早くと待ち望む。昔の城は今からでは戦争には使えまい。もはや人びとの仰ぎ見る美と平和の象徴である。(昭和57年1月14日寄贈)

西村計雄（明治42年・北海道生まれ）
東京美術学校卒、藤島武二に師事。1943年文展（現・日展）特選。戦後早稲田中学校と高等学校の教師を勤め、51年に42歳で単身渡仏する。ピカソの画商カーンワイラー氏との出会いを契機に、53年よりパリを中心にヨーロッパ各地で個展を開催。その作品は、フランス国立近代美術館やパリ市美術館に買い上げとなった。フランス芸術文化勲章、共和町立西村計雄記念美術館開館。
2000年12月4日没。

沖縄協会は、沖縄が本土に復帰するまでの間、各種の援護活動を行った特殊法人南方同胞援護会（昭和31年～47年5月）の後を受けて、昭和47年9月20日に設置された内閣府所管の公益法人です。新たに設立した財団法人沖縄協会は、南方同胞援護会の実績と経験を活用して、沖縄の振興施策に積極的に協力し、平和で豊かな沖縄県の建設に寄与してまいりました。平成23年（2011）4月1日、沖縄協会は内閣総理大臣より公益財団法人として認定を受けて「公益財団法人沖縄協会」として新たな一歩を踏み出しました。これからも、沖縄県の健全な発展と幸福な社会形成に役立つ事業を行いながら、沖縄平和祈念堂を管理運営することで、平和で豊かな沖縄県の建設に貢献していきます。

公益財団法人 沖縄協会

経営者、評議員、そして「移動する人」

重田 辰弥

沖縄協会評議員として、また、美ら島沖縄大使、WUB東京顧問など、幅広く活躍されている重田氏にお話を伺いました。

重田辰弥［しげた たつや］

1940年満州ハルビン生まれ。終戦後、両親の故郷・奄美に引き揚げ、小学6年のとき一家で沖縄へ移住。那覇高(12期)卒後、琉球大学法政科へ入学。1年で中退し、上京。早稲田大学第一文学部西洋史学科卒。1967年、琉球新報社入社(東京総局勤務、内閣記者会所属)、1年後に退職。(株)ビジネスコンサルタント社をへて独立、(株)日本アドバンストシステム創業。沖縄県功労受賞(2016年)、関東沖縄経営協会顧問、関東沖縄IT協名誉会長、WUB東京顧問、関東奄美IT懇話会顧問

沖縄協会との出会い

私と沖縄協会との最初の出会いは、琉球新報の記者をしていた時代です。当時霞ヶ関にあった沖縄協会の前身、特殊法人南方同胞援護会の事務所へ訪問取材して、専務理事(当時)の吉田嗣延さんからお話をうかがいました。その後、㈱日本アドバンストシステム社長という立場で、毎月開催されていた「沖縄問題研究会」第9回の講師を務めました。演題は「沖縄におけるソフト産業の可能性」です。この時、場内満席、立ち見の聴講者出る程、研究会空前の出席率が高く、質疑応答の時間には農林省官房地方課長や沖縄開発庁総務局企画課長からご質問いただいて、大変活発な議論を交わしたこと、沖縄県庁の担当者から「沖縄情報産業政策に参考になります」等、様々な方面から反響や問い合わせがありました。その後出版された「講演録」は在庫尽きる程、注文が殺到したとのことです。こうした実績が評価され平成18年、当時の小玉正任会長から沖縄協会評議員への就任を要請され、以来今日まで15年に亘り、努めています。沖縄協会は、南方同胞援護会から続く長い歴史を持つ団体で、私が就任した頃、霞が関の東京事務所には10名を超える職員がいましたが、現在の東京事務所はたった1人の職員で死守しています。設立当時と今では社会情勢などの事情が大きく違ってきましたが、沖縄平和祈念堂を守るという使命は変わることがなく、毎年その祈念堂の清掃保守に沖縄事務所の職員がボランティアと共に取組んでいます。この維持・管理費として寄附金を集めるためには、従来の広報に加えて、例えば「祈念堂友の会」を創設するなどの新しい工夫が必要です。また、祈念堂は県外から見ると沖縄県平和祈念資料館や平和の礎などと同様「恒久平和を希求する」共通の施設です。その管理・保守体制は県と内閣府管轄を始発設立に持つ公益法人と別々ですが、「平和追及祈念」という同じ理念を持つ施設同士、運営面等でもう少し連携、協力し合うことが出来ないものかと思います。15年評議員を務めた経験から、協会の運営について少し忌憚のない感想ですが、事業内容や理事の職務執行状況をチェックするという評議員会の機能をもっと発揮するべきと自責の念があります。理事会、評議員会を開催するときは、役員が各々沖縄協会のためにどのような貢献をしたのか、あるいはこれから何をするか「フリーディスカッション、交流」の時間を持つては！

経営者として沖縄を見る

私は父から「給料をもらう人ではなく、給料を払う人になりなさい」と言われ、この言葉は「沖縄タイムス」紙上でも紹介されました。30歳代でIT企業を立ち上げ、県出身企業経営者として本土から見ると、大変豊かで魅力的な沖縄市場の多くが本土出身の経営者に席捲、略奪(?)されているように見えます。沖縄県の企業誘致と雇用促進施策は大きな実績、成果を上げたことは事実ですがこれは反面、豊かな県市場を本土出身経営者に提供した一面があるのでは？その典型的な一例はバス、タクシー運営で赤字苦闘していた県内複数交通業社を一括買収した福岡の第一交通社は、見事に県内交通産業を席捲、好収益を実現しています。勿論、県出身のユニークな経営者も育っていますが、豊かな市場と可能性を持つ県はもう少し、「給料を貰う人」より「給料を払う人」県出身人材を育成したら！これは一部私の偏見かもしれませんが東京で起業している沖縄出身の私ならではの視点とご笑覧下さい。

「沖縄―奄美の境界変動と人の移動」

2021年2月、野入直美(のいりなおみ・琉球大学人文社会学部人間社会学科准教授)さんの著書『沖縄―奄美の境界変動と人の移動』実業家・重田辰弥の生活史」が、みずき書林から出版されました。この本は、戦後の沖縄社会を「人の移動」と「境界変動」に着目して、とくに《沖縄―奄美》という視点でとらえなおしていく、という内容で、タイトルの通り私のライフヒストリーが書かれています。著者の野入さん

との出会いは2008年、ブラジルのサンパウロで開催された沖縄移民100周年記念式典・記念シンポジウムです。私がWUB東京の初代会長として参加し、質疑応答の時間に「沖縄移民の歴史は、華々しい成功物語だけではないはずです。移住先で苦しい思いをした人々の歴史を調査していただきたい。」と発言したことがきっかけです。今回の出版に際して印象に残ったのは、野入さんの調査・研究に対する真摯な姿勢と、みずき書林さんの編集技術の高さです。これには大変驚かされました。また、この本を通じて、私自身まったく意識していなかった自分に出会うことができました。歴史に翻弄された奄美出身の一個人が、境界変動を繰り返すなかで「異世界」や「異文化」に関心を持って前に進み、ピンチをチャンスと捉えて挑んできた。私自身がそのように心がけていたわけではなく、気が付いたらそうなっていた、というのが正直なところですが、同じような経験をすれば誰でもそうなるかというと、そうではなかったと思います。そして、読者から寄せられた反響も興味深いものでした。「『負け方を知る』という言葉に感動しました。」とお話してくださった方がいらっしゃいます。境界変動という経験が、失敗に負けない私を作った。負け方を知っていれば、それは強みになる。という話に心を動かされたようです。こうした反響の中からも「意識していなかった自分」に出会うことができました。

「沖縄―奄美の境界変動と人の移動」
野入直美著　琉球大学人文社会学部　人間社会学科准教授
2021年2月20日～みずき書林

沖縄をルーツにもつ人々の自由な経済、文化、社会活動を通じて交流し友情を育み郷土のみならず地域の発展と繁栄に貢献し互いに協力連帯することを理念とする団体

WUB
(Worldwide Uchinanchu Business Association)

沖縄協会主催 第90回沖縄問題研究会

沖縄協会主催第90回沖縄問題研究会は、2月22日、同会会議室で、那覇市出身の重田辰弥日本アドバンストシステム社長を招き「沖縄におけるソフト産業の可能性」を主題に企業側からの講演をきいた。同氏はソフト産業の特色、規模、沖縄におけるソフト会社、市場の特性とその可能性を述べ、沖縄ソフト産業への提言を政策面からと個別企業に対して行った。

月刊「沖縄」第186号（1990年3月）より

★沖縄平和祈念堂 改修工事に伴うご寄付のお願い

開堂から43年を迎える沖縄平和祈念堂では、現在、経年劣化による改修工事を頻繁に実施しております。今後、さらに工事の必要が考えられますので、多くの皆様に諸経費に対するご寄付を賜りますようお願い申し上げます。ご連絡いただきましたら、ゆうちょ銀行専用振込票を送付させていただきます。

公益財団法人 沖縄協会
【電話番号:03-5283-5111】
【FAX:03-3219-1550】

沖縄平和祈念堂では、沖縄県が作成した「新型コロナ感染症感染防止対策チェックシート」を実施し、「感染防止徹底対策宣言ステッカー」を取得しています。

沖縄協会だより
2021.7 No.20

トピックス

★沖縄平和祈念像「浄め」

6月15日、当協会は恒例行事の沖縄平和祈念像「浄め」を行った。この浄めは、6月23日に行われる「沖縄全戦没者追悼式前夜祭を迎えるにあたり行われるもの。昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染防止のため規模を縮小し、漆芸家の糸数政次さんと当協会職員など8人での作業となった。戦没者への慰霊の祈りと世界の恒久平和、コロナの終息を願い、平和祈念像の埃を払い浄めた。

★令和3年 沖縄全戦没者追悼式前夜祭

6月22日、当協会は令和3年沖縄全戦没者追悼式前夜祭を平和祈念堂で開催した。この行事は、沖縄県、(一財)沖縄県遺族連合会、(公財)沖縄県平和祈念財団の共催を得て毎年開催している。今回は、新型コロナウイルスの感染拡大防止を考慮し、ご遺族をはじめ一般の方々のご参列を見合わせていただき、規模を縮小して式典と琉球古典音楽献奏(録音)のみで開催した。式典では来賓各位が参列するなか、「鎮魂の火」の献火、「平和の鐘」の献鐘を合図に「黙祷」を捧げた。次に、野村一成当協会会長代理・上原良幸副会長が「私たちは、現在の生活が幾多の尊い犠牲の上に築かれたことを決して忘れず、戦争への反省と世界平和への決意を新たにし、戦没者追悼の象徴である沖縄平和祈念堂から全世界の人々に、恒久平和の実現を訴え続けていくことを誓う」と鎮魂(しづたま)のことばを述べた。最後に、前夜祭の主題を表す琉歌三首を歌唱する琉球古典音楽の献奏(録音)を行った。録音の音源は1980年(昭和55年)前夜祭第2回目の記録テープから使用した。

協会関係事業他 募集案内など

★琉球大学家政学科同窓会 基金助成対象者決定

第12回琉球大学家政学科同窓会沖縄協会選考委員会は、書面による審査を行い、介護を考える女性の会(盛根秀子代表)の「沖縄県における有料老人ホームの実態調査について」を助成対象者に決定した。

★第29回金城芳子基金 助成対象者決定

4月11日、当協会が主催する第29回(令和3年度)金城芳子基金運営委員会が開催され、応募があった7件の中から平安名萌恵氏(立命館大学大学院博士後期課程)の「沖縄の貧困と子生み・子育てをめぐる選択ーシングルマザーへの生活史インタビューー」を助成対象に決定した。5月7日、県庁記者クラブで贈呈式が行われ、助成金30万円が贈られた。

★第43回(令和3年度) 沖縄研究奨励賞推薦応募案内

沖縄研究奨励賞は、沖縄を対象とした将来性豊かな優れた研究(自然科学・人文科学・社会科学)を行なっている新進研究者(又はグループ)の中から受賞者3名を選考し、奨励賞として本賞並びに副賞の研究助成金50万円を贈り、表彰するもので、応募期間は7月15日～9月30日(当日消印有効)

沖縄出身画家紹介⑨

沖縄平和祈念堂美術館

南風原 朝光 作

奥入瀬(4) F10

南風原朝光 明治37年生・沖縄県

昭和4年日本美術学校卒。4年二人展(名渡山愛順・南風原朝光／那覇・円山号)、6年白日会第8回展白日会賞、7年第1回沖縄美術協会展出品、14年第14回国画会展出品(以後毎回出品)、15年紀元2600年奉祝展『野菜と果物』入選、16年個展(那覇・山形屋)、17年第1回台展『静物(魚)』台日文化賞、18年国画会賞・会友に推挙、23年国画会会員に推挙、26年第6回沖展運営委員・芸能祭審査委員、34年五人展(佐藤英男・竹中三郎・鳥居敏文・中尾彰等・南風原朝光／東京・兜屋画廊)、54年名渡山愛順・南風原朝光遺作二人展(沖縄県立博物館)、54年福岡市美術館『静物』収蔵、56年沖縄作家五人遺作展(沖縄平和祈念堂美術館)『魚の静物』『サモアールのある風景』等展示。36年没。
額サイズ:縦×横×厚【60.7×69×5 ㎝】
(平成20年12月23日寄贈)

●2021年7月発行
●発行／公益財団法人 沖縄協会(沖縄平和祈念堂)
〒901-0333 沖縄県糸満市摩文仁448-2 TEL.098(997)3011 FAX.098(997)2678
〈HP〉http://www.okinawakyoukai.jp